

## 龍敬神社（三津屋）

三津屋に大曲川がある。この川が唯一交通の要路であった。中程に三津屋橋があり、この橋は明治41年に改修され、長さ6間4尺、幅2間であった。現在の橋は、昭和8年7月に改修されている。

川の下流(東側)に東西15間、南北33間の船溜りがあった。ここは元和元年5月8日に重之公の孫、重光、重政が二百余名を率いて大阪夏の陣に向かった港である。明治期には年間に出入りする船舶700余艘。そして、船宿などもありました。

船溜りの北側(一色家所有・三津屋200番地2)に龍敬神社がある。明治38年、三津屋の一色喜作が日露戦争の凱旋記念を祝した後、龍毛神社を龍敬神社に改めた。そして、以前からの社を改築し奉塔を建てお祀りした。

昭和10年12月、喜作の次男保三郎が信者50余名の協力を得て改築。

平成4年10月、保三郎の長男武が改築。

現在、一色家の護り神として喜作の子孫一同がお祀りをし、三津屋出港の日である5月8日(新暦)を毎年の祭日としている。

豊臣秀吉が四国平定の際に戦場であったと思われるが、それ以前から龍毛神社として社があったという。記録に残っているものに次の記載がある。

大日本帝国南海道四国愛媛県東豫周桑郡多賀村三津屋川北 龍毛神社

尚、明治26年以前に一色喜作は、日蓮宗に改宗している。菩提寺が東海山長福寺(重之公菩提寺)から久成山本妙寺(西条市国安)になったのである。

